

地方創生の実学に取り組む

慶應義塾大学SFCと「地方創生に関する連携協力協定」を締結

2月13日、長島町と慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC・神奈川県）は「地方創生に関する連携協力協定」を結びました。

これは、国の地域おこし協力隊制度を活用し、大学院生を町で受け入れ、地域に根ざした調査・研究をしてもらい、地域活性化を目指すものです。

今後、この制度を活用し本町に住む同大学院生は「地域おこし研究員」として本町の実態に即した調査・研究を行います。

締結式で川添町長は「農業振興や移住促進など、町が現在抱えている課題について研究してもらい、解決策を見つけてほしい」とあいさつ。同大学総合政策学部の河添健学部長は「お互いの人材育成や外部の視点からの提案などを行い地域活性化へつなげたい」とあいさつしました。



↑締結後握手を交わす川添町長と河添学部長

これまでの取り組みを報告

第2回地域おこし協力隊報告会

2月10日、長島町総合開発センターで「第2回地域おこし協力隊報告会」が行われ、8人の地域おこし協力隊員らがこれまでの活動報告を行いました。

平成27年10月に、本町の協力隊第1号として着任した土井隆さんは、インターネット関連企業に勤務していた頃の知識やネットワークを活用し、本町のふるさと納税の楽天市場サイトの開設や複数のWebサイトを開設。今後は、長島町の全ての求人情報をインターネットの求人サイトに掲載する計画などを話しました。

長島大陸Nセンターの開所や、町外の高校生が町内にホームステイし、地元業者のホームページを作成する企画「島TECH」を始めた神明竜平さんは「高校の無い長島町の新たな『高校』を少しずつ形にしていきたい」と抱負を話していました。

じゃがじゃがジムを開所した、鬼氣悟士さん、益田菜央子さんは、同ジムの会員らの状況などを報告。本町の健康増進のために今後、どういった



↑各協力隊が、活動成果をそれぞれ報告

運動メニューを取り入れていくかなどを話しました。

隊員らの活動を聞くために参加した約20人の町民たちは、それぞれの活動報告に興味深そうに耳を傾けていました。